

3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ベトナムで下方修正も、ブラジルで上方修正され、上方修正された。史上最高の見込み。

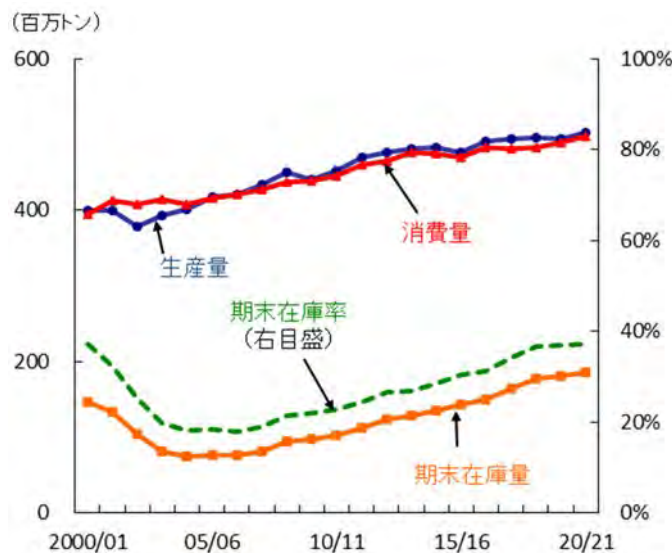
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジルで上方修正も、ベトナム、フィリピンで下方修正され、下方修正された。史上最高の見込み。

輸出入 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジルで上方修正も、ベトナム、中国で下方修正され、下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2020.6.11）をもとに農林水産省にて作成

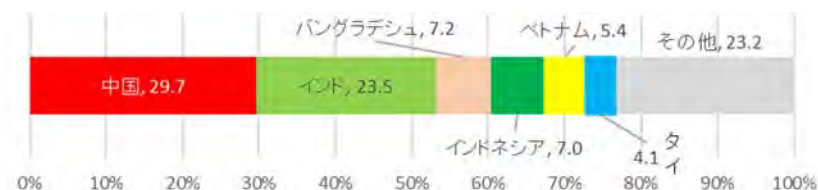
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

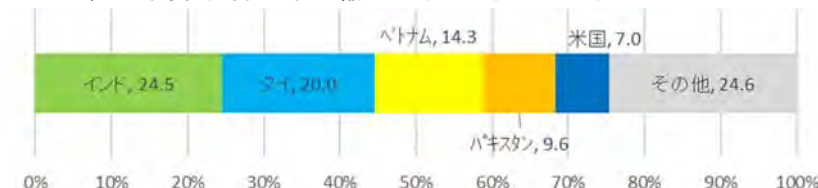
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	496.5	494.3	502.1	0.1	1.6
消 費 量	483.8	489.8	498.0	▲ 0.1	1.7
輸 出 量	43.7	41.7	44.9	▲ 0.3	7.8
輸 入 量	43.8	40.2	42.0	▲ 0.1	4.5
期末在庫量	176.8	181.3	185.4	1.2	2.3
期末在庫率	36.5%	37.0%	37.2%	0.2	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 June 2020）

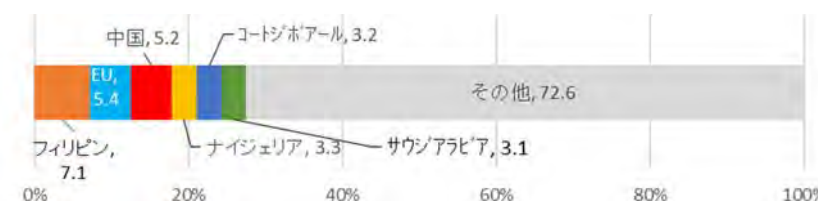
○ 2020/21 年度 世界の米の生産量（502.1 百万トン）（単位：％）



○ 2020/21 年度 世界の米の輸出量（44.9 百万トン）



○ 2020/21 年度 世界の米の輸入量（42.0 百万トン）



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の実産量は、前月予測から変わらず、対前年度 17.1%増の 6.9 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約 3 割を占める。また、現在出穂期に入っており、Crop Progress(2020.6.21)によれば、その進捗率は 9%（前年同期は 4%、過去 5 年平均は 6%）、例年より早いペースとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出量は、南米市場との激しい競争により前月予測からわずかに下方修正され、対前年度 3.0%増の 3.1 百万トンの見込み。輸入量は、タイ産香り米の輸入拡大により前月予測からわずかに上方修正され、対前年度 0.9%増の 1.1 百万トンの見込み。

< 中国 >

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度の実産量は、前月予測と変わらず、対前年度 1.5%増の 149.0 百万トンの見込み。なお、中国気象台の農業気象週報によれば、江西、湖南等地区的二期作早稲は分けつ期から節間伸長期、一部は穂孕み期に入っている。全国の二期作早稲の一、二類の苗の割合は 14%と 84%で、前年同期比で一類は 6 ポイント減少し、二類は 8 ポイント増加している。また、東北地区の一期作稲は三葉期から移植活着期に入っている。全国の一期作稲の一、二類の苗の割合は 30%、69%で、前年同期比で一類は 4 ポイント増加し、二類は 3 ポイント減少している。中国国家糧油情報センター（2020.6.3）によれば、2020/21 年度の実産量（粳）は 211 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の実輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、対前年度 14.8%増の 3.1 百万トン、輸入量は前月予想と変わらず、対前年度 8.3%減の 2.2 百万トンとなる見込み。中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（5 月）によれば、5 月の早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格（精米）は、それぞれ 3,780 元/トン（4 月は 3,800 元/トン）、4,160 元/トン（同 4,160 元/トン）、4,320 元/トン（同 4,260 元/トン）。気温の上昇に伴い需要が減り、インディカ米の価格は下落した。ジャポニカ米は供給が少なく、価格は上昇した。

米－米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.9	6.9	－	17.1
消費量	4.6	4.3	4.4	0.1	3.3
輸出量	3.0	3.1	3.1	▲ 0.0	3.0
輸入量	0.9	1.1	1.1	0.0	0.9
期末在庫量	1.4	1.0	1.4	0.0	35.3
期末在庫率	18.8%	13.9%	18.2%	0.6	4.3

（参考）

収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.14	－	14.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.63	－	3.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

米－中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省
等で栽培、生産シェアは 3 割程度

（単位：百万精米トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.5	146.7	149.0 (148.1)	－	1.5
消費量	142.9	144.9	147.1 (146.0)	0.1	1.5
輸出量	2.8	2.7	3.1 (3.4)	▲ 0.1	14.8
輸入量	3.2	2.4	2.2 (2.3)	－	▲ 8.3
期末在庫量	115.0	116.5	117.5 (113.0)	0.5	0.9
期末在庫率	78.9%	78.9%	78.2% (75.7%)	0.3	▲ 0.7

（参考）

収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	30.20 (30.00)	－	1.7
単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.05 (4.93)	－	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
IGC 「Grain Market Report (28 May 2020)」 （単収は精米t/ha）

※ 一類苗：生育が正常な苗 二類苗：通常の苗よりやや小さい苗
三類苗：病気の苗、弱い苗

< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測から変わらず、対前年度13.3%増の20.4百万トンの見込み。2020年6月14日～20日の間にモンスーンによる降雨がタイ全土にあり、播種が進んだ。現時点では、モンスーンによる降雨は前年と同程度に少なく、今後の生育への影響が懸念される。2019/20年度の雨季作米は降雨不足により遅れ、活着期であり、4月24日時点でのタイ農業・協同組合省による生産量（粳）の見通しは、雨季米24.9百万トン、乾季米4.1百万トンである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から変わらず、対前年度比28.6%増の9.0百万トンの見込み。なお、タイの降雨不足による乾季米の減産や雨季米への影響懸念もあり、3月末から上昇していたタイの米の国際価格は、6月24日時点で534ドル/トンであり、依然として高止まりしている。

< インド >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度の実産量は、前月予測から変わらず、対前年度0.1%増の118.0百万トンの見込み。インド地球科学省気象局は、例年通り6月1日にモンスーンが到来し雨季が始まったと発表した。インド農業省によれば、カリフ米の作付が一部地域で始まっており、作付済面積は15.8万ヘクタールで前年同期を下回ったが、2013/14年度～2017/18年度の5年平均は上回った。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から変わらず、対前年度8.9%増の11.0百万トンとなる見込み。インド商工省によれば、2020年1月～2月の輸出量累計は2.0百万トンで前年同期比5.2%の減少となった。

また、インド食料公社によれば、2020年6月の米の政府備蓄量は27.4百万トンで、前年同時期を下回っているものの、4月1日時点の目標備蓄量13.6百万トンを大幅に上回っている。

米ータイ

夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.3	18.0	20.4	(20.0)	-	13.3
消 費 量	11.5	11.4	11.8	(11.4)	-	3.5
輸 出 量	7.6	7.0	9.0	(8.5)	-	28.6
輸 入 量	0.3	0.3	0.2	(0.3)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.5	4.4	4.2	(4.3)	0.3	▲ 4.6
期末在庫率	23.8%	23.9%	20.1%	(21.5%)	1.4	▲ 3.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.83	9.96	10.90	(10.73)	-	9.4
単収(もみt/ha)	2.85	2.74	2.84	(1.86)	-	3.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

IGC「Grain Market Report (28 May 2020)」(単収は精米t/ha)

米ーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.5	117.9	118.0	(118.9)	-	0.1
消 費 量	99.2	102.3	104.0	(105.3)	-	1.6
輸 出 量	10.4	10.1	11.0	(10.8)	-	8.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	29.5	35.0	38.0	(36.5)	-	8.6
期末在庫率	26.9%	31.1%	33.0%	(31.5%)	-	1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.16	43.60	44.00	(43.88)	-	0.9
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.02	(2.71)	-	▲ 1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)

IGC「Grain Market Report (28 May 2020)」(単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、収益性の高い品目への政府による作付転換の奨励等により、前月予測から0.3百万トン下方修正され、対前年度0.6%減の27.2百万トンの見込み。なお、ベトナム気象局によれば、6月の降水量は全国的には例年よりも少なく、主産地の南部では例年通り～例年よりも多い降水量が見込まれる。また、ベトナム農村農業開発省によれば、2019/20年度の冬春作米は5月15日時点で前年度同期比3.1%減の303万ヘクタールが作付され、生産量は15.3百万トンが見込まれている。一方、夏秋作米は前年度同期比35.6%減の115万ヘクタールの作付進捗となっている。南部では夏秋作の作付が進んでいるが、干ばつと海水侵入により前年よりも作付開始が遅れ、生育への影響が懸念される。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度4.5%減の6.4百万トンに減少する見込み。ベトナム税関総局によれば、5月には輸出枠が撤廃されたことから5月の輸出量が急増し、2019/20年度（2020年1月～5月）の累計輸出量は309万トンと対前年同期比で12.2%増加している。また、輸出価格が高騰していることから、2020年1月～5月の輸出額合計は約15億米ドルと対前年同期比で26.7%増加している。

米ーベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.3	27.4	27.2 (28.5)	▲ 0.3	▲ 0.6
消 費 量	21.2	21.2	21.2 (22.5)	▲ 0.2	-
輸 出 量	6.6	6.7	6.4 (6.5)	▲ 0.2	▲ 4.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.1	1.0	1.0 (2.6)	-	-
期末在庫率	4.0%	3.5%	3.5% (8.9%)	0.1	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.54	7.51	7.50 (7.47)	▲ 0.10	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.80	5.83	5.80 (3.81)	0.01	▲ 0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
IGC 「Grain Market Report (28 May 2020)」 (単収は精米t/ha)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナの上方修正により、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

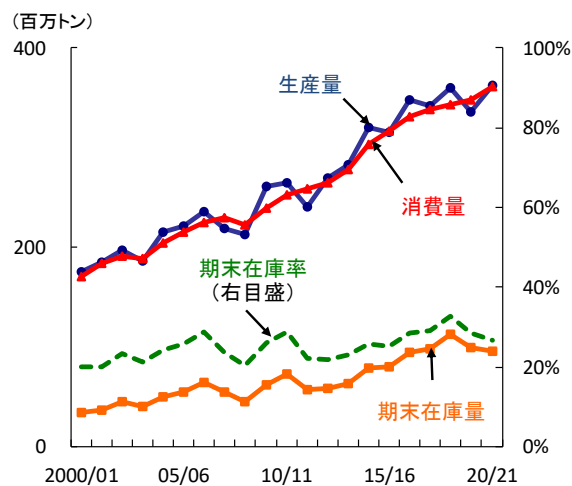
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国、米国等の上方修正により、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナの上方修正により、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2020.6.11)をもとに農林水産省で作成。

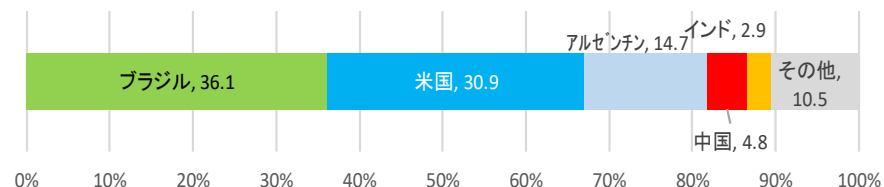
◎ 世界の大豆需給

(単位:百万トン)

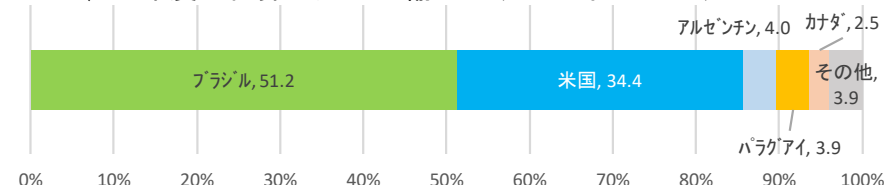
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	360.3	335.4	362.9	0.1	8.2
消費量	342.7	348.4	361.7	1.0	3.8
うち搾油用	297.3	302.7	313.7	0.9	3.7
輸出量	148.3	155.5	162.0	0.0	4.1
輸入量	144.6	155.2	158.0	-	1.8
期末在庫量	112.5	99.2	96.3	▲ 2.1	▲ 2.9
期末在庫率	32.8%	28.5%	26.6%	▲ 0.6	▲ 1.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2020)

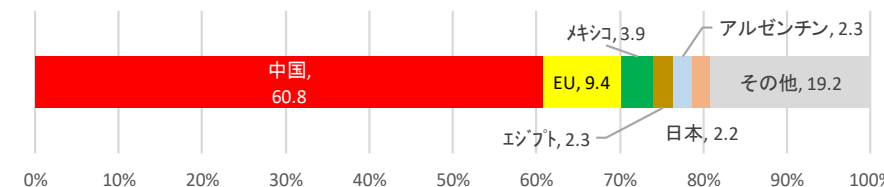
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量 (362.9 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量 (162.0 百万トン)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量 (158.0 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加により前年度より 16.1%増の 112.3 百万トンの見込み。「Crop Progress」（2020.6.22）によると、天候におおむね恵まれたことから 6 月 21 日現在で主要 18 州における作付はほぼ終了し、発芽進捗率は 89%と、前年度同期（66%）及び過去 5 年平均（85%）より進んでいる。開花進捗率は 5 %と、前年度同期（1 %）より進み、過去 5 年平均（5 %）と同水準となっている。作柄評価は、良からやや良が 70%と前年度同期（54%）を上回っている。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度は畜産向けの大豆需要が回復基調であることを見込み、前月から 0.4 百万トン上方修正され、前年度より 1.7%増の 62.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出の大幅な増加等から前年度より 24.2%増の 55.8 百万トンの見込み。輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～6 月 4 日）は、14.1 百万トンであり、内訳は中国（3.4 百万トン）、エジプト（1.9 百万トン）の順である。

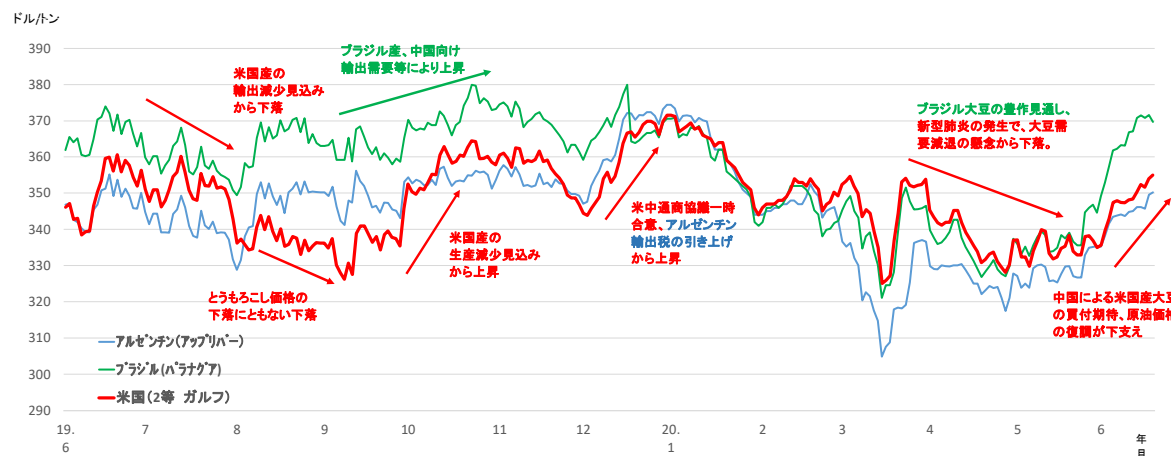
大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.5	96.7	112.3	-	16.1
消費量	60.5	61.0	62.1	0.4	1.7
うち搾油用	56.9	58.2	58.4	0.4	0.2
輸出量	47.6	44.9	55.8	-	24.2
輸入量	0.4	0.4	0.4	-	-
期末在庫量	24.7	15.9	10.8	▲ 0.3	▲ 32.4
期末在庫率	22.9%	15.0%	9.1%	▲ 0.3	▲ 5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.51	-	10.5
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.35	-	5.0

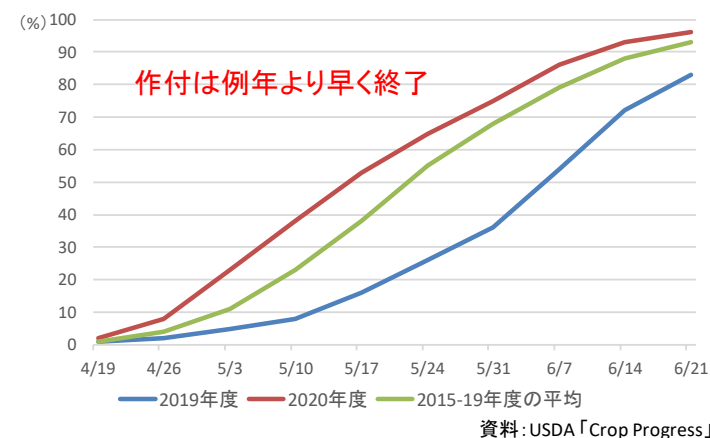
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 June 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

図：主要 18 州における作付進捗率の推移



< ブラジル >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加から前年度より 5.6%増の 131.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。本年 9 月以降に作付けが開始される。なお、2019/20 年度の収穫は、終了している。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.6%増の 47.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2020 年後半の輸出量が減少する見込みから前年度より 2.4%減の 83.0 百万トンの見込み。なお、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第 1 位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、3 月から 5 月にかけて中国向け輸出が急増しており、2020 年 1～5 月の累計輸出量は 48.1 百万トンで、前年同期比 1.4 倍となり、この時期としては史上最大となっている。内訳は、1 位が中国で 35.0 百万トンと全体の 73%を占めている。

ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）

2019/20 年度の大豆の収穫は 2 月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2019/20 年度	2019 年												2020 年								
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
夏とうもろこし	リオグランデス州等 作付 4.2(百万ha)												収穫 25.4(百万t) → 収穫夏冬計 101.0百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 18.5百万ha												作付 14.3(百万ha) → 収穫 75.6(百万t)								
大豆	マトグロソ州、パラナ州等 作付 36.8(百万ha)												大豆収穫後一部圃場で冬とうもろこし栽培 → 収穫 120.4(百万t)								

資料: Conab 穀物レポート(2020.6.9)

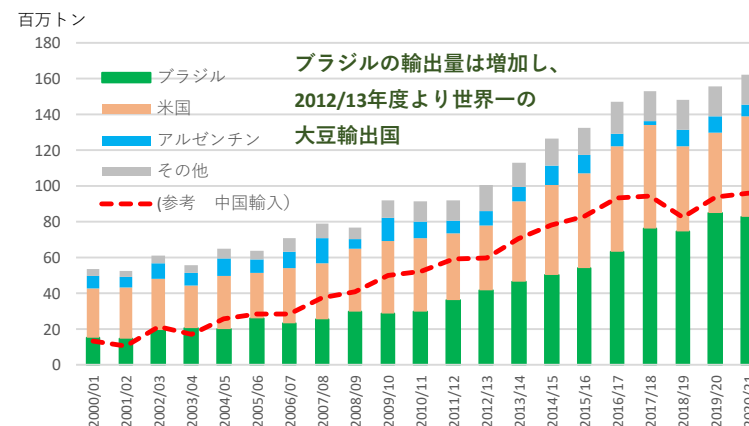
大豆—ブラジル

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	119.0	124.0	131.0 (129.0)	-	5.6	
消 費 量	44.8	46.9	47.7 (…)	-	1.6	
うち搾油用	42.5	44.3	45.0 (…)	-	1.7	
輸 出 量	74.6	85.0	83.0 (…)	-	▲ 2.4	
輸 入 量	0.1	0.3	0.2 (…)	-	▲ 40.0	
期末在庫量	32.5	24.8	25.3 (…)	▲ 0.9	2.0	
期末在庫率	27.2%	18.8%	19.4% (…)	▲ 0.7	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	35.90	36.80	38.30 (…)	-	4.1	
単収(t/ha)	3.31	3.37	3.42 (…)	-	1.5	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
OIL WORLD 「OIL WORLD Weekly」(12 June 2020)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(2020.6.11)のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.0%増の53.5百万トンの見込み。

なお、「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2020.6.18)によれば、2019/20年度の収穫はほぼ終了。主産地の降雨不足の影響で、生産量は2018/19年度より10%減の49.6百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加に伴い前年度より4.8%増の50.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争、国内の搾油量の増加により前年度より27.8%減の6.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、4月に中国向け輸出が急増しており、2020年1～4月の輸出量は88万トンで、前年同期より54%増。内訳は、1位が中国68万トン、2位がチリ2.5万トンとなっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。なお、生産規模ごとに税率が20～33%と細分化され、年間1,000トンを超える生産者は33%課税されることとなった。

また、アルゼンチン政府は6月8日に2月に破産した大手搾油企業ビセンティンの国有化を含む救済措置を発表した。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	55.3	50.0	53.5 (51.5)	-	7.0
消 費 量	47.5	47.9	50.2 (…)	-	4.8
うち搾油用	40.6	40.8	43.0 (…)	-	5.4
輸 出 量	9.1	9.0	6.5 (…)	-	▲ 27.8
輸 入 量	6.4	3.6	3.6 (…)	-	-
期末在庫量	28.9	25.6	26.0 (…)	▲ 1.4	1.6
期末在庫率	51.1%	45.0%	45.9% (…)	▲ 0.0	0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	17.00	17.30 (…)	-	1.8
単収(t/ha)	3.33	2.94	3.09 (…)	-	5.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(11 June 2020)

OIL WORLD「OIL WORLD Weekly」(12 June 2020)

写真：北部サンタフェ州の大豆収穫後の圃場

(5月23日撮影)

4月に大豆収穫後、6月から早生種の
小麦を作付け予定。



< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.3%減の17.5百万トンの見込み。なお、中国糧油情報センター(2020.6.3)によれば、5月末に全国の播種はほぼ終了し、東北地区では出苗期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、ASFの甚大な影響から回復し、養豚数の増加により飼料用需要、搾油需要がともに増加することから前月予測から0.5百万トン上方修正され、前年度より6.4%増の111.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、養豚数の回復から飼料用需要が増加することから前年度より2.1%増の96.0百万トンの見込み。

中国財政部は、2月14日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税30%のうち、2019年9月追加分の5%分を半減させ、追加関税を27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2月18日、1年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～4月の輸入量は24.5百万トンと、前年同期比で0.5%増。内訳は、ブラジル産13.2百万トン(54%)、米国産8.5百万トン(35%)。なお、4月の輸入量は、ブラジル産(5.9百万トン)が米国産(0.7百万トン)を大きく引き離れた。

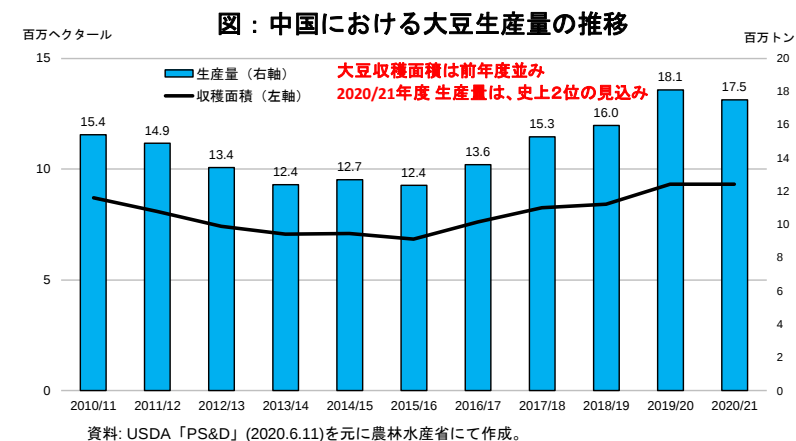
農業農村部「農産品供需形勢分析月報5月号」(2020.6.16)によると、5月は、農家保有大豆がほぼなくなり、ロシア産大豆の輸出が一時停止されていたが、気温の上昇とともに豆製品需要の伸びも緩やかであり、取引業者は在庫を減らすことに注力し、国内価格は緩やかな上昇にとどまった。

大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、0はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.0	18.1	17.5 (18.0)	-	▲ 3.3
消 費 量	102.0	105.2	111.9 (…)	0.5	6.4
うち搾油用	85.0	87.5	93.5 (…)	0.5	6.9
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 16.7
輸 入 量	82.5	94.0	96.0 (…)	-	2.1
期末在庫量	19.5	26.2	27.7 (…)	0.5	5.7
期末在庫率	19.1%	24.9%	24.8% (…)	0.3	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.30 (…)	-	-
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.88 (…)	-	▲ 3.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 June 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Weekly」(12 June 2020)



< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.5%増の6.2百万トンの見込み。なお、産地のオンタリオ州やマニトバ州では天候に恵まれ、大豆の作付けが順調に終了し、生育期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要の増加に伴い、前年度より4.0%増の2.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.9%減の4.0百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.3	6.0	6.2 (6.1)	－	2.5
消 費 量	3.1	2.5	2.6 (2.4)	－	4.0
うち搾油用	2.1	1.8	1.9 (1.9)	－	5.6
輸 出 量	5.3	4.3	4.0 (4.2)	－	▲ 5.9
輸 入 量	1.2	0.5	0.6 (0.5)	－	22.2
期末在庫量	0.7	0.4	0.5 (0.3)	－	25.0
期末在庫率	8.4%	5.9%	7.6% (4.6%)	－	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.54	2.30	2.17 (2.10)	－	▲ 5.7
単収(t/ha)	2.86	2.61	2.83 (2.89)	－	8.4

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(11 June 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(23 June 2020)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 6 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---